

令和元年度日田市農業振興ビジョン推進委員会会議録

R1.10.3（木）13：30～15：10

庁議室

次 第

1. 開会

2. 委員長挨拶

資料の確認

- ・ 次第
- ・ 名簿
- ・ 基本施策・主要施策実績
- ・ 品目別実績

3. 議 事

(1) 基本施策における主要施策、品目別振興の実績について

資料のとおり報告

(意見交換)

- 1・ 梨の振興については県も力を入れているところである。輸出についても次の施策を考えていかなければならないところである。

また、高齢化等による担い手不足は大きな課題であり、県としても担い手への農地集積は取り組んでいかなければならない。担い手への農地集積が目標の84%だったが、市として、今後どの様に取り組んでいくのか。

[今後、「人・農地プランの実質化」の業務に入り、集落での話し合いが必要となってくる。その機会を利用して農地集積にも取り組んでいきたい。また、今年度になり農業委員会との連携で、担当者レベルでの協議を行い、定例総会の後に開催されている定期検討会においても情報共有に努めている]

- 2・ 農地集積について、国は8割を担い手にとっているが、到底達成できない数字だとは思っている。日田市の集積率はどれくらいか。

[5割まではっていないが、40数%。県全体では42~43%。]

3・農業委員会も人・農地プランの実質化に積極的に関わるようになってきている。農地集積については、今後加速的に進むのではないかと期待している。

4・素晴らしい梨ジュースができています。梨の出荷量は減っているが、輸出が伸びたのは、海外に原料を送ったようなこともあるのか。

[30年度は天候不順で梨が大きくなり、重さでいく生産量は増えなかった。ジュースの原料については、29年・30年と2年間梨をストックしていた。]

5・梨の目標値については、とても達成できない数字が並んでいると思う。せっかくの機会なので、県内で伸びている作物があったら教えてほしい。

[水田の畑地化で露地野菜が増えている。特に白ネギ。日田市で言えば、確実にニンニクが増えていく。露地野菜は政策的にもそうであるし、高収益な作物へ誘導している。]

6・露地野菜は初期投資があまり要らずに取り組めるので、市でも推してほしい。

7・一番難しいのは、作物をどう販売するかである。

8・今年は無カが異常発生したが、今回の対応で今後の検討課題があればお聞きしたい。

[平成25年にも異常発生した事がある。警報が出た後、すぐに広報活動をした。車で広報をしながら、圃場も回ったが、田んぼにでている人はほとんどいなかった。防除方法の問合せに対し、説明も行った。お盆以降の長雨で防除を勧めたが、ミストを持っている人が少なかった。無人ヘリも飛ばしたが回り切れずに、時期的に遅くなった部分もあった。情報誌にも掲載しているが、目を通してもらえていなかった。]

9・東有田の無カの被害はすごかった。台風に関しては、特に梨農家は、きっちり対策をしている。被害は少なかった。対策をきっちりすれば、台風にも耐えられる事がわかった。

10・長雨の時期に徹底した防除をした人は無カ被害はなかった。

11. 内水面について、生産量が落ち込んでいる。ここ数年で生産量は回復するのか。

[29年・30年は豪雨災害とアユの病気が発生した。ウナギの稚魚が高くて、購入して放流ができなかった。ウナギに関しては今後も難しいので、アユの方で頑張っていかなければならない。今年から日田漁協の方で養殖だけでなく、捕獲したり釣った魚を買い取りするようになった。買い取りして販売するようにしたので、もう少し増えるのでは、と思っている。]

(2) 重点施策の進捗状況及び令和元年度事業の取り組み状況について

(資料 農業振興ビジョンの47ページ～50ページの重点施策)

農業振興課のそれぞれの係総括より報告。

(政策・担い手支援係)

- ・重点施策1 担い手をサポートする拠点の立ち上げ
- ・令和元年度の主要事業を紹介

(内水面・畜産振興係)

- ・重点施策2 日田の風土に合った循環型農業の実現
- ・令和元年度の主要事業を紹介

(生産・流通推進係)

- ・重点施策3 時代のニーズに応える日田ブランドの確立
- ・令和元年度の主要事業を紹介

(基盤整備係)

- ・重点施策4 稼ぐ農業のための生産基盤の見直し
- ・令和元年度の主要事業を紹介

(意見交換)

- 1・日田ブランドの確立について。作物のPRについては市に本当に良くしてもらっており、感謝している。日田のブランド力もかなりついてきていると思うが、市はどこをターゲットにしているのか。年齢もあるが、福岡や関西、関東など地域も。梨についてはインスタでもあげてもらって、フォローしている。おもしろい。SNSなども含めてアピールすると良い。

先日、関西に販促に行った。大阪は飛ぶように売れた。関西の景気の良さを感じた。そ

のような所で日田ブランドをアピールしてはどうか。色んな品目でやってみると良いのでは。

[万博もあるし、期待できる地域かなと思っている。一過性ではなく、買いたいと思った時に、手に入れられる事が必要。

ふるさと納税やネット等遠くにいても手に入れられる事ができるようになっている。

SNS もそうだが、時代とともに売り方も変わっている。どういう PR の仕方がベストなのか、県・農協・生産者と一緒に協議しながら効果的な戦略を打っていききたい。]

2・ブランドの確立については、県も非常に苦労している。爆発的なブランド力がつくのは難しい。単独で10億稼いでいるような経営体はしっかりしたHP等、消費者が困った時にすぐに調べられるものを持っている。困った時は全てスマホで調べる時代。HPやSNSのアップ、更新の数は信用になる。部会単位が無理であれば、有志の方でも支援する方法もある。施策の一つの手法として考えていくべき。

3・自治体のHPよりも、生産者や部会のHPしか見ない場合もある。そういうところを支援していくと良い。そういう施策ができればおもしろい、

4・カワウ被害防止対策事業は日田漁協にお願いしているのか。カワウがアユの稚魚を食べてしまう。力を入れないと三隈川からアユがいなくなってしまう。

[捕獲に対しては県漁連の補助でやっている。テグスを張ったりカワウが川に近づきにくい対策をしている。]

5・黒毛和種優良繁殖雌牛導入支援事業。こういう事業は遅れている。昨年、玄海町の牧場に視察に行ったが、高い雌牛を買うのではなく、元牛はF1の雌を買ってきて、子牛を生ませている。良い雌牛は卵を取るだけにしていた。そういう時代ではない事を事務局もわかってほしい。

また、農業大学校には他県の非農家の方の入学が多いと聞いた。そういう人を、やる気があれば、オペレーターに引っ張ってくるのもいいと思う。空き家も紹介して、移住してもらったりしても良い。

6・担い手どころか人がいない中で、常時雇用するには、米・麦・大豆だけではなく、園芸作物に取り組むことが必要。水田畑地化という事で、パンフレットもいただくが、いざ何をつくるかという、本当に収益性のあるものが見出せないのが実情。梨のほか、後に続く作物がない。

畑作を何か仕掛けてみる事が必要では。失敗したら行政が持つ、くらいの気持ちがないと産地にはなれない。新規就農者は初期投資がかかる。ハウスのリースができないか、と思っている。

[作る技術も対策だが、出先というか売り先を考えていかないと、新規作物にはなり得ない。県・両農協とも考えていかなければならない。生産だけではなく、販売まで考えていかなければ。]

7・山田原に関しては、排水対策が問題である。山田原の課題である。

[地域農業システムの基本構想のゾーン分けという事で説明しているが、まとまった団地作物で土地を動かしながら排水対策を行っていく。地権者もいる事で、地域の協力が必要である。県と一緒に進めていく。]

8・「ひたむき」は写真もとても綺麗で素敵な情報誌だと思っている。素晴らしい。福岡だけではもったいない。こんな素敵な料理を大分県の農業祭に出展して、食べてもらってはどうか。大分が無理ならば、JAJA フェスタはどうか。

[本当は生産者に食べてもらってほしいと思っている。今回の号はパスタだが、スイーツもある。生産者に食べてもらえるきっかけがあれば、と思っている。不特定多数の人は難しいが、せっかくの縁なので、考えていきたい。できればいいと思っている]

3. 閉 会